

環境経営レポート

2024年度試行運用版

(試行運用期間：2024年10月～2024年12月)



発行日：2025年 2月 5日

有限会社相良建設工業

目 次

1. 組織の概要	1
2. 認証・登録の対象範囲（全組織・全活動）	2
3. 実施体制	3
4. 環境経営方針	4
5. 環境経営目標	5
6. 環境経営計画	6
7. 環境経営計画に基づき実施した取組内容	7
8. 環境経営目標の実績とその評価	10
9. 環境経営計画の取組結果とその評価	11
10. 今後の計画（環境経営目標、環境経営計画）	12
11. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、 並びに違反、訴訟の有無	14
12. 代表者による全体評価と見直し・指示	15

1. 組織の概要

- 1) 事業者名 有限会社 相良建設工業
 代表者氏名 代表取締役 相良 徳詔
 設立年月日 1990年6月1日
 資本金 2,000万円
- 2) 所在地 本店 〒812-0861 福岡県福岡市博多区浦田1-19-10-2
 志免営業所 〒811-2209 福岡県糟屋郡志免町王子3-6-11
 志免資材置き場 〒811-2208 福岡県糟屋郡志免町吉原194-2
 宇美資材置き場 〒811-2101 福岡県糟屋郡宇美町神武原5丁目157-1
- 3) 環境管理責任 吉永やよい
 連絡先 T E L 092-936-0680 F A X 092-936-0670
 Eメールアドレス yoshinaga@sagara-kensetsu.co.jp
- 4) 事業の内容 建設業：建設許可 福岡県知事許可(特-3)第090492号
 土木工事業、石工事業、鋼構造物工事業、しゅんせつ工事業、
 水道施設工事業、舗装工事業、とび・土工工事業、管工事業、塗装工事業、
 解体工事業
 産業廃棄物処理業：産業廃棄物収集運搬業許可
 (許可の内容)

産業廃棄物収集運搬業				許可項目															
都道府県及び政令都市	積替保管		許可の年月日及び有効年月日	許可番号	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラスくず類	がれき類	ばいじん
	有	無																	
福岡県	●		2022.06.21	第04000085266号						●	●	●	●		●	●	●	●	
			2027.06.20																
佐賀県	●		2021.10.07	第 04101085266号						●	●	●	●		●	●	●	●	
			2026.10.06																

(収集運搬車両)

キャブオーバ (1.25t 1台、1.5t 1台)

ダンプ (2t 2台、3t 5台、4t 1台)

(収集運搬総重量)

2023年度 176.0t

試行期間 (2024年10月～12月) 47.0t

- 5) 事業の規模 総売上額：2 8 2 百万円 (2023年度)

区分	単位	本店	志免営業所	志免資材置き場	宇美資材置き場	全社
従業員数	人	8	3	0	0	11
延床面積	m ²	63.84	74.51	敷地 676	敷地 1693.84	延床138.35 敷地2,369.84

- 6) 事業年度 6月～翌年5月

2. 認証・登録の対象範囲（全組織・全活動）

今回のエコアクション21試行運用にあたっては、当社の全組織、全活動を対象に、構築した環境経営システムを運用し、計画した環境への取組を実践しました。

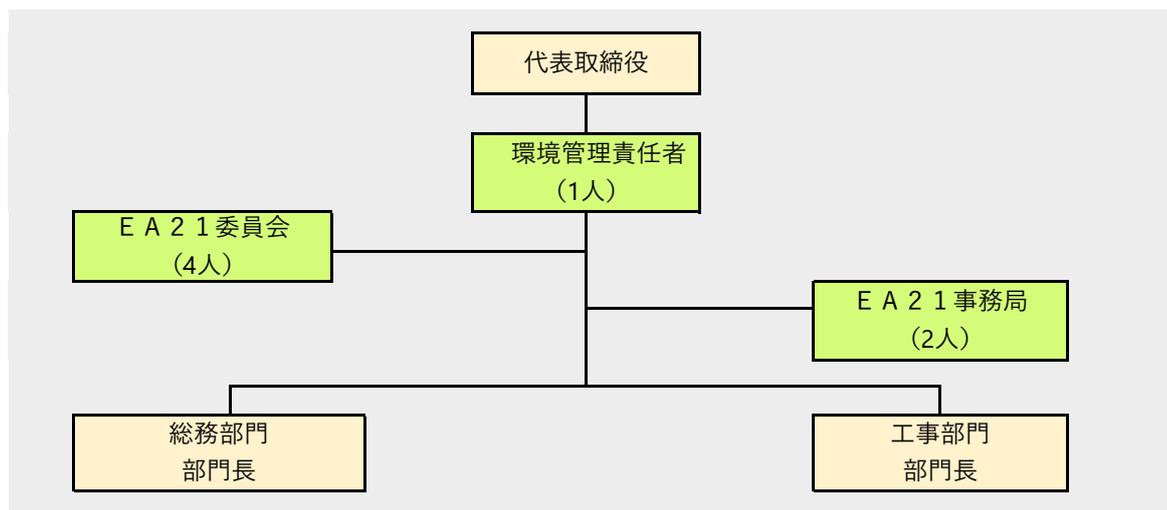
（1）対象事業所

本店 〒812-0861 福岡県福岡市博多区浦田1-19-10-2
志免営業所 〒811-2209 福岡県糟屋郡志免町王子3-6-11
志免資材置き場 〒811-2208 福岡県糟屋郡志免町吉原194-2
宇美資材置き場 〒811-2101 福岡県糟屋郡宇美町神武原5丁目157-1
建設現場等（施工、改修、解体工事に係る活動）

（2）対象事業活動

土木工事業、石工事業、鋼構造物工事業、しゅんせつ工事業、
水道施設工事業、舗装工事業、とび・土工工事業、管工事業、塗装工事業、
解体工事業
産業廃棄物収集運搬業

3. 実施体制



役割分担表

所 属	役割・責任・権限
代表者	<ul style="list-style-type: none"> 代表者として環境経営全般について責任と権限を持つ 環境経営方針・実施体制を作成・見直し、従業員に周知する 環境管理責任者、EA21事務局員を任命する 環境への取組を実施するための資源（人・もの・金）を準備する EA21全体の取組状況に関し評価、見直しを実施する 経営における課題とチャンスを整理し、明確化する
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> EA21ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築し、実行し、環境実績を向上させる。 毎年、環境経営目標、環境経営計画を作成する。 3か月に1回、環境経営目標の達成状況及び環境経営計画の実施状況を確認・評価する。 上記の結果を代表者に報告する。
EA21委員会	<ul style="list-style-type: none"> 3か月に1回開催し、環境経営目標及び環境経営計画の実施状況を審議する。
EA21事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者を補佐し、EA21文書及び記録類、及び基礎データの作成・維持・集計・管理を行う 社外からの環境情報の収集と伝達を行う
部門長	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画、実施体制を部門全員に周知する 環境経営目標達成のため、責任を持って自部門の環境活動を推進する 自部門で発生した問題点の是正処置、予防処置を実施する 自部門に関連する法規制等を順守する 自部門に関連する緊急事態への準備及び対応の訓練を実施する 自部門の教育・訓練を実施する
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画、及び実施体制の理解と環境への取り組みの重要性を自覚する 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する

4. 環境経営方針

【基本理念】

有限会社 相良建設工業は、建設工事業、産業廃棄物収集運搬業を通じて社会インフラの整備や循環型社会の構築に貢献する会社です。事業を行うにあたっては、人間活動による地球環境への影響を一人一人が認識できるよう組織で取り組み、現在、未来へと健全で心豊かな地球環境を引き継ぐために、チーム一丸となり、環境負荷低減に不断に取り組みます。

【行動方針】

1. 次の項目を重点項目として環境経営の取組みを定期的に確認・評価し、見直し結果に基づき継続的改善を図ります。
 - (1) 電力、燃料等のエネルギーの効率的な使用及び省エネに努め、二酸化炭素排出量を削減します。
 - (2) 廃棄物の削減と再資源化推進に取り組みます。
 - (3) 節水に努め、水使用量を削減します。
 - (4) 環境に配慮した工事に努めます。
2. 当社の事業に関連する環境関連法規等を遵守します。
3. 地域貢献活動を推進します。
4. 全社員が環境経営方針を理解し、それを周知徹底すると共に、チーム一丸となって計画的に実施し、環境問題への意識向上を図ります。
また、社外に環境経営レポートを公開し、利害関係者のみならず社会とのより良いコミュニケーションを図って行きます。

制定日 2024年 7月 8日
有限会社 相良建設工業
代表取締役 相良 徳詔

5. 環境経営目標

- ・環境経営目標は、当社の事業活動を踏まえて、2023年度を基準年として2024年度試行運用期間（3カ月間）及び残期間（5カ月間）～2027年度までの中長期目標として、以下の5項目17目標をサイト区分（本店、営業所、建設現場、全社）して設定しました。
- ・試行運用期間の削減目標は、基準年（2023年度実績値）に対して1%削減し、2026年度からは毎年0.5%ずつ上乗せして削減し、2027年度までに2%削減を目指します。
- ・事業活動で取り組む本業目標として「環境対応型建設機械の使用」を掲げ、数値目標は掲げず、受託工事における対象機械の使用を徹底しました。

環境経営目標	サイト区分	単位	基準年 2023年度	2024年度試行期間の目標		2024年度残期間の目標		中長期目標		
				基準年度比（1%削減）		基準年度比（1%削減）		2025年度 （1%削減）	2026年度 （1.5%削減）	2027年度 （2%削減）
				実績値	目標値	実績値	目標値			
				2023年6月～ 2024年5月	2023年10月～ 2023年12月	2024年10月～ 2024年12月	2024年1月～ 2024年5月	2025年1月～ 2025年5月	2025年6月～ 2026年5月	2025年6月～ 2026年5月
1. 二酸化炭素排出量の削減	全社	kg - CO ₂	106,815	27,385	27,111	56,096	55,535	105,747	105,213	104,679
(1) 電気使用量削減	全社	kWh	16,438	2,980	2,950	9,107	9,015	16,273	16,191	16,109
	本店	kWh	5,729	1,429	1,414	2,874	2,846	5,672	5,643	5,615
	営業所	kWh	5,065	1,148	1,136	2,085	2,064	5,015	4,989	4,964
	建設現場	kWh	5,643	404	400	4,147	4,106	5,587	5,558	5,530
(2) ガソリン使用量削減	全社	ℓ	10,317	2,624	2,598	4,368	4,324	10,214	10,163	10,111
	本店・ 営業所	ℓ	4,066	986	976	1,771	1,753	4,026	4,005	3,985
	建設現場	ℓ	6,251	1,639	1,622	2,596	2,570	6,188	6,157	6,126
(3) 軽油使用量削減	全社	ℓ	29,055	7,702	7,625	16,075	15,914	28,764	28,619	28,474
	建設現場	ℓ	29,055	7,702	7,625	16,075	15,914	28,764	28,619	28,474
(4) 液化石油ガス（LPG） 使用量削減	本店	kg	112	21	-	87	-	-	-	-
2. 廃棄物排出量の削減	全社	t	922	287	284	465	460	913	908	904
一般廃棄物排出量削減	本店・ 営業所	kg	247	61	61	120	119	245	244	242
産業廃棄物排出量削減	建設現場	t	922	287	284	465	460	913	908	903
3. 水使用量の削減	本店・ 営業所	m ³	210.5	52.5	52.0	94.5	93.6	208.4	207.3	206.3
4. 環境対応型建設機械の使用	建設現場	-	-	-	環境対応型建設 機械の使用	-	環境対応型建設 機械の使用	環境対応型建設 機械の使用	環境対応型建設 機械の使用	環境対応型建設 機械の使用
5. 地域貢献活動の推進	全社	-	4	1	1	2	2	4	4	4

備考

- ・購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.475kg-CO₂/kWh（九州電力 2022年度（メニューB）・調整後）
- ・購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.437kg-CO₂/kWh（エバーグリーン 令和6年提出用（メニューB）・調整後）
- ・産業廃棄物排出量は、特別管理も含む
- ・液化石油ガス（LPG）を使用していた暖房機器が通常のエアコンになったため、対象外になる
- ・事業活動での化学物質の使用はありません

6. 環境経営計画

・環境経営目標を達成するため、以下の達成手段（具体的な取組）とスケジュール決めて、全従業員で取り組みました。

1. 二酸化炭素排出量の削減

取組目標		サイト区分	達成手段（具体的な取組）		スケジュール
(1)	電気使用量の削減	本店 営業所	1	昼休み、残業時間または不要な時は、電気を消灯する	通年
			2	エアコンの設定温度を夏26～28℃冬20～22℃を目標	夏：6月～9月 冬：11月～3月
		現場	1	現場事務所にいない際は、全ての電源をOFFにする	通年
(2)	ガソリン使用量の削減	本店 営業所	1	エコ運転に心がける（急発進、急加速、空ぶかし等しない）	通年
			2	こまめに空気圧をチェックする	通年
		現場	1	エコ運転に心がける（急発進、急加速、空ぶかし等しない）	通年
			2	過積載防止に努め、こまめに空気圧をチェックする	通年
(3)	軽油使用量の削減	現場	1	リース機械など省エネ、排対型を積極的に使用する	通年
			2	発電機、コンプレッサー等はこまめに電源OFFにする	通年
			3	建設機械等は定期的、施工開始前の点検	通年
			4	環境に配慮した建設機械の使用	通年
			5	エコ運転に心がける（急発進、急加速、空ぶかし等しない）	通年

2. 廃棄物排出量の削減

取組目標		サイト区分	達成手段（具体的な取組）		スケジュール
(1)	一般廃棄物排出量の削減	本店 営業所	1	コピーするときは出来るだけ両面コピーとする	通年
			2	分別を徹底しリサイクルに積極的に努める	通年
(2)	産業廃棄物排出量の削減	現場	1	分別を徹底し、再利用できるものは保管しておく	通年
			2	設計に見合った取り壊しの徹底（面積・厚み）	通年

3. 水使用量の削減

取組目標		サイト区分	達成手段（具体的な取組）		スケジュール
(1)	水使用量の削減	本店 営業所	1	出しっぱなしの防止、こまめな開閉の徹底	通年
			2	水栓を全開せず、バルブ調整を行い節水する	通年
			3	節水ラベルの掲示	通年

4. 環境対応型建設機械の使用〔自らが施工する工事等の環境に配慮する項目〕

取組目標		サイト区分	達成手段（具体的な取組）		スケジュール
(1)	環境対応型建設機械の使用	現場	1	レンタル・リース機械は環境対応型建設機械を使用	通年

5. 地域貢献活動の推進

取組目標		サイト区分	達成手段（具体的な取組）		スケジュール
(1)	社内外清掃	本店 営業所	1	年に4回、本店・営業所周辺の清掃をする。	11月、2月、5月、8月
			2	週に1回、デスク周りの整理・整頓をする。	通年
		現場	1	年に4回、資材置き場の清掃をする。	11月、2月、5月、8月

7. 環境経営計画に基づき実施した取組内容

- ・2024年度試行運用期間で当社が実施した環境への取組は、以下のとおりです。
- ・節電や節水、廃棄物の分別、環境に配慮した低騒音、低排ガスの環境対応型重機の使用、定期的な清掃活動も実施しました。更に、初めてエコアクション21に取り組むにあたって、社内勉強会も開催しました。

二酸化炭素排出量削減の取組



エアコン温度の設定



エアコン温度の設定
(冷房：27℃、暖房：20℃)

廃棄物排出量削減の取組



ゴミの分別



ゴミの分別

水使用量削減の取組



節水対策



節水対策

環境対応型建設機器の使用



現場で使用する重機は超低騒音型、排気ガス規制対応型を使用

地域貢献活動の推進



周辺の清掃

緊急事態（火災発生対応）の訓練



火災訓練

教育訓練の実施



環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画、実施体制を全員に周知

8. 環境経営目標の実績

- ・2024年度試行運用期間における環境への取組による環境経営目標達成状況は、以下のとおりです。
- ・設定した5項目17目標のうち、4項目12目標で環境経営目標を達成でき、全体として良好な取組結果となっています。
- ・当社の最大の環境負荷となっている二酸化炭素排出量は目標達成率132%で、特に建設現場で使用する電気、軽油使用量を低く抑えることが出来ました。
- ・本業目標とした「環境対応型建設機械の使用」については、全工事現場で使用の徹底を図り、目標を達成できました。
- ・地域貢献活動も計画どおり実施できています。
- ・今後も環境意識を高め、従業員が一丸となって取組を徹底させていきます。

項目	サイト区分	単位	基準月	2024年度試行運用期間 (2024年10月～12月)		目標達成率	目標達成判定
			2023年度実績 (2023年10月～12月)	目標値 (1%削減)	実績値		
1. 二酸化炭素排出量の削減	全社	kg・CO ₂	27,385	27,111	20,489	132%	◎
(1) 電気使用量削減	全社	kWh	2,980	2,950	2,609	113%	○
	本店	kWh	1,429	1,414	1,349	105%	○
	営業所	kWh	1,148	1,136	1,064	107%	○
	建設現場	kWh	404	400	196	204%	◎
(2) ガソリン使用量削減	全社	ℓ	2,624	2,598	2,765	94%	△
	本店・営業所	ℓ	986	976	1,153	85%	△
	建設現場	ℓ	1,639	1,622	1,612	101%	○
(3) 軽油使用量削減	全社	ℓ	7,702	7,625	4,994	153%	◎
	建設現場	ℓ	7,702	7,625	4,994	153%	◎
(4) 液化石油ガス (LPG) 使用量削減	本店	kg	21	21	-	-	-
2. 廃棄物排出量の削減	全社	t	287	284	383	74%	×
一般廃棄物排出量削減	本店・営業所	kg	61	61	36	168%	◎
産業廃棄物排出量削減	建設現場	t	287	284	383	74%	×
3. 水使用量の削減	本店・営業所	m ³	52.5	52.0	38.0	137%	◎
4. 環境対応型建設機械の使用	建設現場	-	-	環境対応型建設機械の使用	環境対応型建設機械の使用	-	○
5. 地域貢献活動の推進	全社	-	1	期間中 1回実施	期間中 1回実施	100%	○

備考

目標達成判定区分 ◎：目標達成率120%以上、○：100%以上120%未満、△：80%以上100%未満、×：80%未満、-：判定不可

(1) すべての使用量、排出量の目標値は、売上高あたりの原単位により設定した。

(2) 購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.475kg-CO₂/kWh (九州電力 2022年度 (メニューB) ・調整後)

(3) 購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.437kg-CO₂/kWh (エバーグリーン 令和6年提出用 (メニューB) ・調整後)

(4) 3ヶ月の売上高は出来高率により算出した。

(5) 水使用量は上下水道、地下水、河川水の合計とする。

(6) 液化石油ガス (LPG) を使用していた暖房機器が通常のエアコンになったため、対象外になる

(7) 事業活動での化学物質の使用はありません

9. 環境経営計画の取組結果とその評価

- ・環境経営計画で定めた活動項目については、一部取組（エコ運転、空調温度管理、廃棄物の分別作業）で十分な結果が出ませんでした。その他の取組は適切に実施する事が出来ました。
- ・2024年度残期間では、不良取組の周知徹底を図り、従業員への環境意識付けを行って、全取組での実施達成を目指します。

取組目標	サイト区分	達成手段（具体的な取組）	実施状況判定	評価
1.二酸化炭素排出量削減	全社	二酸化炭素排出量削減（目標達成状況）	○	・電気は、12月にエアコンの暖房切替で、取組みが遅れる。設定温度遵守を再徹底する。 ・ガソリンは、不十分な目標達成状況。エコ運転の実施を再徹底する。 ・軽油については、目標をよく達成できているが、期間中の工事が少なかったため使用の減少がある。年間の達成状況をモニタリングし、継続して計画を実施する。 ・二酸化炭素は、目標を満足している。
①電力使用量の削減	全社	①電気使用量の削減（目標達成状況）	○	
	本店・営業所	昼休み、残業時間または不要な時は、電気を消灯する	○	
	本店・営業所	エアコンの設定温度を夏26～28℃冬20～22℃を目標	△	
	建設現場	現場事務所にいない際は、全ての電源をOFFにする	○	
②ガソリン使用量の削減	全社	②ガソリン使用量の削減（目標達成状況）	△	
	本店・営業所	エコ運転に心がける（急発進、急加速、空ぶかし等しない）	△	
	本店・営業所	こまめに空気圧をチェックする	○	
	建設現場	エコ運転に心がける（急発進、急加速、空ぶかし等しない）	△	
③軽油使用量の削減	建設現場	過積載防止に努め、こまめに空気圧をチェックする	○	
	建設現場	③軽油使用量の削減（目標達成状況）	○	
	建設現場	リース機械など省エネ、排対型を積極的に使用する	○	
	建設現場	発電機、コンプレッサー等はこまめに電源OFFにする	○	
	建設現場	建設機械等は定期的、施工開始前の点検	○	
2.廃棄物排出量削減	建設現場	環境に配慮した建設機械の使用	○	
	建設現場	エコ運転に心がける（急発進、急加速、空ぶかし等しない）	△	
	本店・営業所	廃棄物排出量（目標達成状況）	×	
	一般廃棄物排出量の削減	本店・営業所	①一般廃棄物排出量の削減（目標達成状況）	◎
		本店・営業所	コピーするときは出来るだけ両面コピーとする	○
産業廃棄物排出量の削減	本店・営業所	分別を徹底しリサイクルに積極的に努める	○	
	建設現場	②産業廃棄物排出量の削減（目標達成状況）	×	
	建設現場	分別を徹底し、再利用できるものは保管しておく	×	
建設現場	設計に見合った取り壊しの徹底（面積・厚み）	○		
3.水使用量削減	本店・営業所	水使用量（目標達成状況）	○	・水使用量は、目標を達成しているが、期間中の検針が1回で使用量が減少。継続して計画を実施する。
水使用量の削減	本店・営業所	出しっぱなしの防止、こまめな開閉の徹底	○	
	本店・営業所	水栓を全開せず、バルブ調整を行い節水する	○	
	本店・営業所	節水ラベルの掲示	○	
4.環境対応型建設機械の使用	建設現場	環境対応型建設機械の使用（目標達成状況）	○	・環境対応型機器使用は、実施できている。
環境対応型建設機械の使用	建設現場	レンタル・リース機械は環境対応型建設機械を使用	○	
5.地域貢献活動の推進	全社	地域貢献活動（目標達成状況）	○	・地域貢献活動は、実施できている。
社内外清掃	本店・営業所	年に4回、本店・営業所周辺の清掃をする。	○	
	本店・営業所	週に1回、デスク周りの整理・整頓をする。	○	
	建設現場	年に4回、資材置き場の清掃をする。	○	

備考) 目標達成判定区分 ◎：目標達成率120%以上、○：100%以上120%未満、△：80%以上100%未満、×：80%未満、-：判定不可
 取組実施判定区分 ◎：よく実施できた(定着)、○：実施できた、△：十分とはいえなかった、×：不十分だった、-：判定不可

10. 今後の計画（環境経営目標、環境経営計画）

（1）環境経営目標

- ・試行運用期間の環境経営目標達成状況は、一部の項目を除いて概ね良好であったため、今後の目標は当初の中長期目標の「2024年度残期間の目標」を適用することとします。

環境経営目標	サイト 区分	単位	基準年 2023年度 2023年6月～ 2024年5月	2024年度残期間の目標		中長期目標		
				基準年度比（1%削減）		2025年度 （1%削減） 2025年6月～ 2026年5月	2026年度 （1.5%削減） 2025年6月～ 2026年5月	2027年度 （2%削減） 2025年6月～ 2026年5月
				実績値	目標値			
				2024年1月～ 2024年5月	2025年1月～ 2025年5月			
1. 二酸化炭素排出量の削減	全社	kg - CO ₂	106,815	56,096	55,535	105,747	105,213	104,679
(1) 電気使用量削減	全社	kWh	16,438	9,107	9,015	16,273	16,191	16,109
	本店	kWh	5,729	2,874	2,846	5,672	5,643	5,615
	営業所	kWh	5,065	2,085	2,064	5,015	4,989	4,964
	建設現場	kWh	5,643	4,147	4,106	5,587	5,558	5,530
(2) ガソリン使用量削減	全社	ℓ	10,317	4,368	4,324	10,214	10,163	10,111
	本店・ 営業所	ℓ	4,066	1,771	1,753	4,026	4,005	3,985
	建設現場	ℓ	6,251	2,596	2,570	6,188	6,157	6,126
(3) 軽油使用量削減	全社	ℓ	29,055	16,075	15,914	28,764	28,619	28,474
	建設現場	ℓ	29,055	16,075	15,914	28,764	28,619	28,474
(4) 液化石油ガス（LPG） 使用量削減	本店	kg	112	87	-	-	-	-
2. 廃棄物排出量の削減	全社	t	922	465	460	913	908	904
一般廃棄物排出量削減	本店・ 営業所	kg	247	120	119	245	244	242
産業廃棄物排出量削減	建設現場	t	922	465	460	913	908	903
3. 水使用量の削減	本店・ 営業所	m ³	210.5	94.5	93.6	208.4	207.3	206.3
4. 環境対応型建設機械の使用	建設現場	-	-	-	環境対応型建 設機械の使用	環境対応型建 設機械の使用	環境対応型建 設機械の使用	環境対応型建 設機械の使用
5. 地域貢献活動の推進	全社	-	4	2	2	4	4	4

備考

- ・購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.475kg-CO₂/kWh（九州電力 2022年度（メニュー-B）・調整後）
- ・購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.437kg-CO₂/kWh（エバグリーン 令和6年提出用（メニュー-B）・調整後）
- ・産業廃棄物排出量は、特別管理も含む
- ・液化石油ガス（LPG）を使用していた暖房機器が通常のエアコンになったため、対象外になる
- ・事業活動での化学物質の使用はありません

(2) 環境経営計画

・2024年度残期間の環境経営計画は以下のとおりであり、本年度取組不良であった空調温度管理、エコ運転、廃棄物の分別作業については重点取組として周知徹底を図っていきます。

1. 二酸化炭素排出量の削減

青字：重点項目

取組目標		サイト区分	達成手段（具体的な取組）		スケジュール
(1)	電気使用量の削減	本店 営業所	1	昼休み、残業時間または不要な時は、電気を消灯する	通年
			2	エアコンの設定温度を夏26～28℃冬20～22℃を目標	夏：6月～9月 冬：11月～3月
		現場	1	現場事務所にいない際は、全ての電源をOFFにする	通年
(2)	ガソリン使用量の削減	本店 営業所	1	エコ運転に心がける（急発進、急加速、空ぶかし等しない）	通年
			2	こまめに空気圧をチェックする	通年
		現場	1	エコ運転に心がける（急発進、急加速、空ぶかし等しない）	通年
			2	過積載防止に努め、こまめに空気圧をチェックする	通年
(3)	軽油使用量の削減	現場	1	リース機械など省エネ、排対型を積極的に使用する	通年
			2	発電機、コンプレッサー等はこまめに電源OFFにする	通年
			3	建設機械等は定期的、施工開始前の点検	通年
			4	環境に配慮した建設機械の使用	通年
			5	エコ運転に心がける（急発進、急加速、空ぶかし等しない）	通年

2. 廃棄物排出量の削減

取組目標		サイト区分	達成手段（具体的な取組）		スケジュール
(1)	一般廃棄物排出量の削減	本店 営業所	1	コピーするときは出来るだけ両面コピーとする	通年
			2	分別を徹底しリサイクルに積極的に努める	通年
(2)	産業廃棄物排出量の削減	現場	1	分別を徹底し、再利用できるものは保管しておく	通年
			2	設計に見合った取り壊しの徹底（面積・厚み）	通年

3. 水使用量の削減

取組目標		サイト区分	達成手段（具体的な取組）		スケジュール
(1)	水使用量の削減	本店 営業所	1	出しっぱなしの防止、こまめな開閉の徹底	通年
			2	水栓を全開せず、バルブ調整を行い節水する	通年
			3	節水ラベルの掲示	通年

4. 環境対応型建設機械の使用〔自らが施工する工事等の環境に配慮する項目〕

取組目標		サイト区分	達成手段（具体的な取組）		スケジュール
(1)	環境対応型建設機械の使用	現場	1	レンタル・リース機械は環境対応型建設機械を使用	通年

5. 地域貢献活動の推進

取組目標		サイト区分	達成手段（具体的な取組）		スケジュール
(1)	社内外清掃	本店 営業所	1	年に4回、本店・営業所周辺の清掃をする。	11月、2月、5月、8月
			2	週に1回、デスク周りの整理・整頓をする。	通年
		現場	1	年に4回、資材置き場の清掃をする。	11月、2月、5月、8月

11. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無

- ・当社の事業活動に適用される主な環境関連法規等は、以下のとおりです。
- ・2024年度試行期間終了後に法令遵守状況を確認・評価した結果、違反はありませんでした。
- ・また、関係機関等からの指摘の指摘、利害関係者からの訴訟も過去3年間ありませんでした。

適用される法規等	適用される事項（施設・物質・活動等）	評価結果
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物の管理 マニフェストの適正処理	○
騒音規制法	特定建設作業の届出 建設現場での機械使用時の騒音レベルの遵守	—
振動騒音規制法	特定建設作業の届出 建設現場での機械使用時の振動レベルの遵守	—
建設リサイクル法	建設4品目の分別解体と再資源化	○
フロン排出抑制法	建設重機用エアコンの簡易点検及び破棄処理時のフロン類の引き渡し	—
労働安全法	石綿則の遵守・健康診断の実施	○
消防法	防火対策物、消防用設備の点検	○
大気汚染防止法	石綿の有無の調査と報告	—
石綿障害予防規則	石綿則の遵守	—

備考) 遵守評価区分 ○：遵守、×：不遵守、—：該当なし

12. 代表者による全体評価と見直し・指示

- ・2024年度試行運用期間の成績は以下のとおりでした。
- ・試行期間終了後に、代表者による取組状況の全体評価と、計画の見直しの必要性を検討しました。
- ・環境経営目標の達成状況については、今回の3カ月間の試行期間内だけでは工事が少なかったこともあり、正確な結果が出ていない可能性があります。そこで、今後、年間を通じた取組をモニタリングし、実績データを蓄積して計画の見直しを行っていきます。

環境経営目標	環境経営目標の達成状況	環境経営計画の実施状況	評価
二酸化炭素排出量の削減	◎	○	目標は達成しているが、期間内工事が少なかったため、年間の達成をモニタリングし、継続して計画実行。
一般廃棄物排出量の削減	◎	○	経営計画の実施を徹底できている。
廃棄物排出量の削減	×	×	目標未達成であるが、期間内で廃棄物発生量の多い工事を実施したためである。年間の取組を継続してモニタリングする。
水使用量の削減	◎	○	目標は達成しているが、期間内検針が1回であったためであり、今後、継続してモニタリングし、節水を徹底する。
環境対応型建設機械の使用	○	○	環境対応型建設期間の使用を徹底できている。
地域貢献活動の推進	○	○	周辺の清掃徹底により達成。

(1) 取組状況の全体評価

- ・環境への取組は、二酸化炭素排出量の削減で目標達成率130%を達成し、概ね良好な結果となりました。
- ・しかし、試行期間内での工事件数が少ないことがその要因とも考えられ、今後、年間を通しての達成判断が必要です。
- ・3ヶ月間にわたるエコアクション21の運用により目標・計画を数値化・記述化する事で達成・未達成が明確化となり、全従業員の環境意識の向上が伺えたことから、環境経営システムは有効に機能していると評価しました。

(2) 見直し・指示の結果

- ・試行運用期間の運用成績を踏まえて、環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画、実施体制は継続するが、産業廃棄物排出量については受注工事の量・内容で大きく影響を受けることが考えられるので、今後の運用データを蓄積し、必要に応じて「再資源化率」の目標設定を今後検討していくものとなりました。